

4. 石神仏にみる祈りの多様性

善光寺巡礼の道の最大の特徴といえば、豊富で多様な石神仏である。これを無視して巡礼の旅はできない。神仏習合という大らかな宗教観が生み出した、それら多様な祈りの形態こそ、私たちの誇るべき文化として世界に発信したい。

(1) 講仲間の本尊

① 庚申塔

庚申の日、睡眠中に人の体内にいる三尸が天に昇り、天帝（北斗の星）にその人の罪過を告げて寿命を縮めようとする。これを阻止するために仲間であ徹夜をするのが庚申講である。近世には主尊として青面金剛（しょうめんこんごう）が定着し、神道では猿田彦神が多く祀られた。庚申塔の古いものは青面金剛が彫像され、江戸後期に庚申の年ごとに建てられると文字碑が多くなっていく。

【青面金剛碑】



出川宿
(松本市)



刈谷原宿
(松本市)



桑原宿西口
(千曲市)

【文字碑】



歴代の庚申塔が並ぶ庚申塚（南箕輪村北殿）



庚申塔他の石仏群（辰野町小野）



右、猿田彦命
(辰野町下雨沢)

② 念仏塔・名号塔・百万遍供養塔

【寒念仏供養塔】 【六斗名号塔】 【百万遍供養塔】



塩井沿道
(南箕輪村)



聖徳寺
(飯島町)



千日回向・三界万霊等
(法界寺・箕輪町)

③ 山岳信仰



悪除大神
(駒ヶ岳里宮神社
宮田村)



役行者
(津島神社・宮田村)



不動明王
(御嶽社・麻績村)

(2) 巡礼供養塔

① 百番・百八十八番供養塔・百体観音

西国三十三番、坂東三十三番、秩父三十四番を全て廻ると百番、これに四国遍路を加えると百八十八番の札所巡りとなる。これらを達成した記念として建立された。

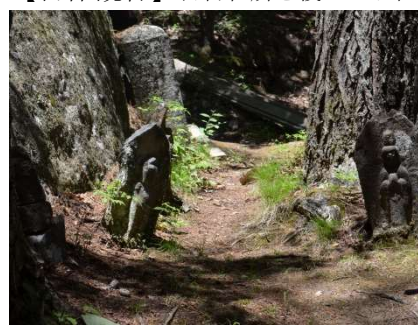
【百番供養塔】 【百八十八番供養塔】 【百体観音】 百番札所を模した石仏 【善根宿供養塔】



賢忠寺跡
(松本市)



洞光寺参道
(松本市)



長安寺岩井堂(松本市)
百番札所の観音像を模した石仏群



廻国五千人宿供養
(法善寺・麻績村)



奉供養回国宿二千人所願成就所
(寛慶寺・長野市)

② 六十六部・回国供養塔

全国六十六州を廻り大乗妙典を納める行者を六十六部という。『日本回国六十六部縁起』にはその祖を頼朝坊といい、生まれ変わって源頼朝となったとする。頼朝の重臣、佐々木高綱も晩年は出家して高野山に入り親鸞の弟子となるが、高綱は六十六部として頼朝の守り本尊である善光寺如来により出雲善光寺を開基した。親鸞も善光寺如来により高田専修寺を開いた善光寺聖といえる。中世以降、善光寺聖の六十六部が多数活躍した。『長野』136号「牟礼盆地の善光寺仏」より）



刈谷原峠
(松本市)



猿ヶ馬場峠
(松本市)



善光寺ぬれ仏も蓮華座に「日本廻国六十六部
供養佛」と銘記されている

(3) 道にまつわる石造文化財

① 道祖神

村境に造立されて悪疫を防ぐ神と考えられ、塞神・道陸神とも呼ばれる。旅人を守る道の神でもあることから、猿田彦神と一緒に祀る風習もあり、縁結びや夫婦和合まで、様々な願いが込められている。小正月の「どんど焼き」「三九郎」は、本来村はずれの道祖神前で行う正月飾りのお焚き上げである。

【双体道祖神】



血吊るし道祖神
(筑北村西条)

【文字碑】



下井堀西
(麻績村)

【陰陽石】



女陰石
(浄信寺・長野市)



男根石と双体道祖神
(麻績村上町)

【木製道祖神】



双体像とオンマラ様(男根像)
(多賀神社蔵・松本市出川)

② 馬頭観音

彫像碑は三面六臂の憤怒相や一面二臂の柔和相があり、どちらも頭部に馬の頭をもつ。馬や旅人の守り仏として、牛馬供養の主尊となった。中馬が盛んだった伊那谷に縁の深い石仏。

【馬頭観音碑】



馬頭観音群他
(辰野町小野)



血取駒場(ちとりこば)
(塩尻市洗馬)



立峠登り口
(松本市)



岡田蓮台場
(松本市)



極楽寺
(千曲市稲荷山)



＜善光寺街道協議会事務局＞

NPO法人善光寺街道歩き旅推進局

〒399-7702 長野県東筑摩郡麻績村日 2154

☎190-2160-6840 fax 0263-67-2922

E-mail kaidou@omimo.info